

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風(東)		
所在地	京都市右京区西院西田町61番地		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大通りから少し離れた静かな環境に立地しており、春には天神川の桜並木を眺め、公園では子供たちの遊ぶ声や姿をみながら穏やかな生活を送れる施設です。家族・入居者に寄り添い想いを出せるかぎり支援できるように努めています。そよ風でよかった。と思っただけのよう向上心をもってがんばっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2690700121-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年3月2日		

当該事業所は、地域との関わりを大切にしており、利用者と一緒に敬老会に参加したり、区民運動会や地域の公園で行われる観桜会等に参加し交流を図っています。併設施設の場所を提供して開催される地域の忘年会や新年会に利用者と共に参加するなど利用者が地域の方と交流する機会を多く持てるように様々なことに取り組んでいます。終末期支援の経験もあり、年1回事業所で看取り支援に関する研修を実施し知識を身に付け、家族の頻回な面会や付き添いなど協力を得ながら看取り支援に取り組んでいます。食事は三食とも事業所で作り、暦の上での行事食も取り入れ職員も利用者と同じ食卓を囲み食事を摂っています。職員間の関係性は良好で日々様々な意見を出し合い協力しながら支援に取り組み、また利用者が笑顔で穏やかに暮らせるよう利用者本位の支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて唱和することにて共有しています。	法人理念と職員間で意見を出し合って作成した事業所独自の理念をフロア入口に掲示し、法人理念については新任入職時研修にて説明し職員へ意識付けしています。会議の中で理念に沿った支援が来ているかを話し合うと共に笑顔を意識しながら日々の支援に当たり、理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会長からの情報をもとに、できる限り行事などに参加しています。	自治会に加入し、回覧板や運営推進会議で地域の情報を得て利用者と近隣の小学校での敬老会に参加したり、区民運動会や地域の公園で行われる観桜会等に出掛けています。併設の事業所で保育園児の歌や遊戯の披露がある時は利用者と観に行ったり、場所を提供して開催する町内の忘年会やカラオケ大会に利用者と共に参加する等、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	余りできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で状況報告や話し合いを行いサービスの向上に生かせるように努めています。	会議は町内会長や婦人会会員、地域包括支援センター職員、時々利用者の参加を得て2か月に1度開催し、事業所の活動や利用者の状況、事故などの報告等を行い意見交換をしています。地域の行事の情報をもらい利用者に参加するなど、得られた情報や意見をサービスの向上等に反映しています。会議の案内や議事録は全家族に送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて協力関係を築くように努めています。	運営推進会議の議事録の提出や運営上の報告等で窓口を訪問した際には区の担当者と相談したり、電話でも不明点の確認等を行っています。行政から案内が届く研修等に出来る限り参加し、協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベーター・居室の窓のキーロックはしていますが、研修会を開催し身体拘束をしない意識向上に努めています。	事業所の全体会議の中で併設の事業所と合同で身体拘束に関する研修を実施し、不参加の職員には資料を渡し、レポートを提出してもらっています。安全上家族の了解の下センサーを使用していますが、必要性については職員間で検討しています。言葉による制止等が見られた場合は管理者が注意し、職員間でも注意しています。外出希望がある場合は職員が付き添って外出したり、ユニット間を移動し気分転換を図っています。	

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会・会議などで意識向上に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用はしていませんが、権利擁護に関しては、研修会で学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得していただけていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい機会や雰囲気を作り意見を言ってもらっています。それらを運営に反映できるように努めています。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞いており、外出行事や食事等に意見を反映しています。家族からは面会時や電話、年2回の家族が集まる機会があり意見や要望を聞いています。体重増加が気になるとの意見を受け、食事を工夫したり運動する機会を増やす等、得られた意見や要望をサービスの向上等に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議などで意見・提案・要望を聞く機会をもうけています。	月1回併設の施設と合同で実施する全体会議やユニット毎の会議で職員の意見を聞いており、環境整備やレクリエーション、食材等の担当者から意見が挙がることもあります。提案を受けて勤務の開始時間の変更など業務改善に取り組んだり物品を購入する等、意見や希望を運営に反映しています。年2回センター長による個人面談の機会や、日々の中でも随時意見を聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い向上心を持って働いていただけるように、環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分とは言えませんが、内外の研修会に参加していただいています。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分ではありませんが、研修会や勉強会に出来る限り参加していただいています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、本人の要望に耳を傾け、安心して生活していただけるような環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族の意見・要望に耳を傾けながら、安心していただける関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要としている支援を見極め、支援出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは、見守り、一緒に行い暮らしを共に出来る関係を築いていけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、ともに協力できるような関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様と一緒に支援に努めています。	友人や親戚等の来訪があり、居室に案内しお茶や椅子を用意しゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。家族と自宅に帰ったり、教会や墓参りに出掛ける際には身支度や薬等の準備を行っています。知人からの電話を取り次いだり、年賀状を出す際は投函を支援する等、馴染みの人や場との関係継続に努めています。	

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	間に入り関わりをもち、支え合えるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	十分ではありませんが出来る限りの支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向を把握し、本人本位の暮らしが出来るように支援しています。	入居時に自宅や病院等へ訪問し本人や家族から生活歴や身体状況、趣味、思いや意向等を聞きアセスメントシートに記載し職員間で共有しています。入居後は利用者から聞いた希望や思いを記録に残し、困難な場合でも様子や表情から汲み取ったり、家族に相談し職員間で本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況・記録にて現状の把握に努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議でカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	利用者や家族の意向を基に作成した介護計画は、毎月モニタリングを行い6か月毎の見直しを基本とし、状態に変化があれば随時見直しを行っています。見直しの際には再アセスメントを実施し、サービス担当者会議を開催し事前に聞いた家族や医師、看護師の意見も反映し現状に即した介護計画となるよう努めています。日々の介護日誌は計画の実施状況が分かるように記載されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天神川の桜並木・学校・公園などを通じて暮らしを楽しんでいただけるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療により適切な医療を受けられるように支援しています。	入居時に今までのかかりつけ医の継続や事業所の協力医について説明し、全利用者が協力医に変更し、月2回の往診を受けています。緊急時は24時間対応で看護師を通じて協力医に連絡し指示を仰いでいます。専門医への受診は家族の対応を基本とし、必要に応じて職員が対応することもあり受診結果は口頭で共有しています。利用者の状態や希望により訪問歯科の口腔ケアや治療を受けたり、訪問マッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応のもと適切な受信や看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談ができるような関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族が必要としている支援を見極め、支援出来るように努めています。家族・医療機関と話し合い支援に努めています。	入居時に指針を基に看取り支援について事業所として対応可能なことを家族に説明し、同意をもらっています。重度化した場合は医師から説明をもらい再度意向を確認し、家族と医師、職員で話し合い方針を共有し、頻回な面会や付き添いなど家族の協力を得ながら取り組んでいます。また、年1回事業所で看取りの研修を実施し知識を身に付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や緊急時対応マニュアルに基づき対応できるよう努めています。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練の実施・災害マニュアルにより対応できるように努めています。	年2回それぞれ昼夜を想定し、内1回は消防署立会の下利用者も参加して通報や避難誘導、初期消火等の訓練を実施しています。訓練の際は近隣に声を掛けており参加はありませんが、地域の自営消防団には町内会長を通じて災害発生時の協力を依頼しています。水やごはん、缶詰、コンロ、ポータブルトイレ等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分ではありませんが、言葉かけや対応が出来るよう努めています。	事業所の全体会議の中で年1回併設の施設と合同で接遇マナーの研修を実施し、不参加の職員へは内容を周知しレポートを提出してもらっています。丁寧語での声掛けを基本として不適切な言葉掛けがあればその都度注意し、職員同士でも注意しています。居室への入室時はノック行い、希望に応じて入浴や排泄介助時は同性介助を実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿った支援が出来るように努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を一緒に選んだりしてその人らしいおしゃれをができるような支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを聞いたりしてメニューを考え、配膳や片付けを一緒に手伝っていただいています。	献立はユニット毎に利用者の好みや希望を聞きバランスも考慮して職員が決め、食材は週3回届けてもらっています。利用者には野菜の下処理や配膳等出来ることに携わってもらい職員も同じ食卓で同じ食事を摂っています。季節に応じてちらし寿司を作ったり、善哉やホットケーキなどのおやつ作りや弁当を取ったり、少人数で寿司や洋食を食べに出掛ける等食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量は共有し個々にあった食事形態で提供して健康維持出来るよう支援しています。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の協力もあり個々の口腔ケアし、清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレの声掛け誘導を行ないトイレで排泄出来るように支援しています。	利用者全員排泄記録を取り、排泄パターンを把握して個々に応じた声掛けやトイレへの案内をしています。個々に合わせた支援を継続することでおむつから紙パンツに移行したり、失敗が減る等排泄状況が改善した利用者もいます。排泄用品の種類や大きさ、支援方法等については会議や申し送り職員間で検討し、失敗の軽減や自立に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事の工夫・服薬コントロールで個々に応じて取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間の許せる限り、個々の希望に沿ったタイミングで入浴していただけるように支援しています。	毎日入浴準備を行い、週2回を目安に午前と午後の時間帯に入ってもらっています。拒否が見られる場合、声を掛ける職員を代えたり、日時を変える等工夫して無理なく入浴してもらっています。ゆず湯をしたり入浴剤の使用、好みのシャンプー等も持ち込み歌や会話を楽しみながら一人ずつゆっくりと入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報を共有し、適切な支援ができるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒にしたり、好きなものをたべたり、お花を生けたり、できる限りの楽しみを見つけて支援しています。		

天神川ケアセンターそよ風(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力もお願いしつつできる限り、支援しています。	日々散歩や買い物へ出掛けたり、地域の行事に参加しています。家族を招いて桜の花見に出掛けたり、紅葉狩り等季節に合わせた外出も実施しており、家族が参加することもあります。併設の施設のプランターに植えている花の水遣りをしたり、外気浴を楽しむ等出来るだけ外出の機会を多く作るように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にお金を所持して使える方には一緒に同行するよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やはがきのやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾りや装飾で季節感を出し、ソファなどを置いて居心地良く過ごせるよう工夫しています。	利用者と一緒に作成した季節の貼り絵や生花を飾り季節感や温かい雰囲気を作っています。利用者同士の相性を考慮してテーブルや椅子の配置を工夫したり、利用者も掃除機掛け等出来る事に携わりながら毎日清掃を行い清潔保持に努めています。利用者の体感も聞きながら室温を調整し、毎日の換気や加湿器も使用する等快適に過ごせる共用空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	可能な限り工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みのものを居室に置き、居心地良く過ごせるように工夫しています。	家族に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝えテレビや筆筒、ソファ、家族の写真等を持ち込み家族が配置し、入居後の生活状況を考慮して職員が家族と相談して配置を変えることもあります。生花の本や編み物の道具を持ち込み楽しむ利用者もおり、希望により布団を敷いて休むことも可能です。換気や清掃を毎日行い清潔保持を心がけ、利用者が快適に過ごせる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り安全に生活できるように工夫しています。		